

# 日本気象学会 1994年度秋季大会

会期：1994年10月18日（火）、19日（水）、20日（木）

会場：九州大学 〒812 福岡市東区箱崎6-10-1

## 目次

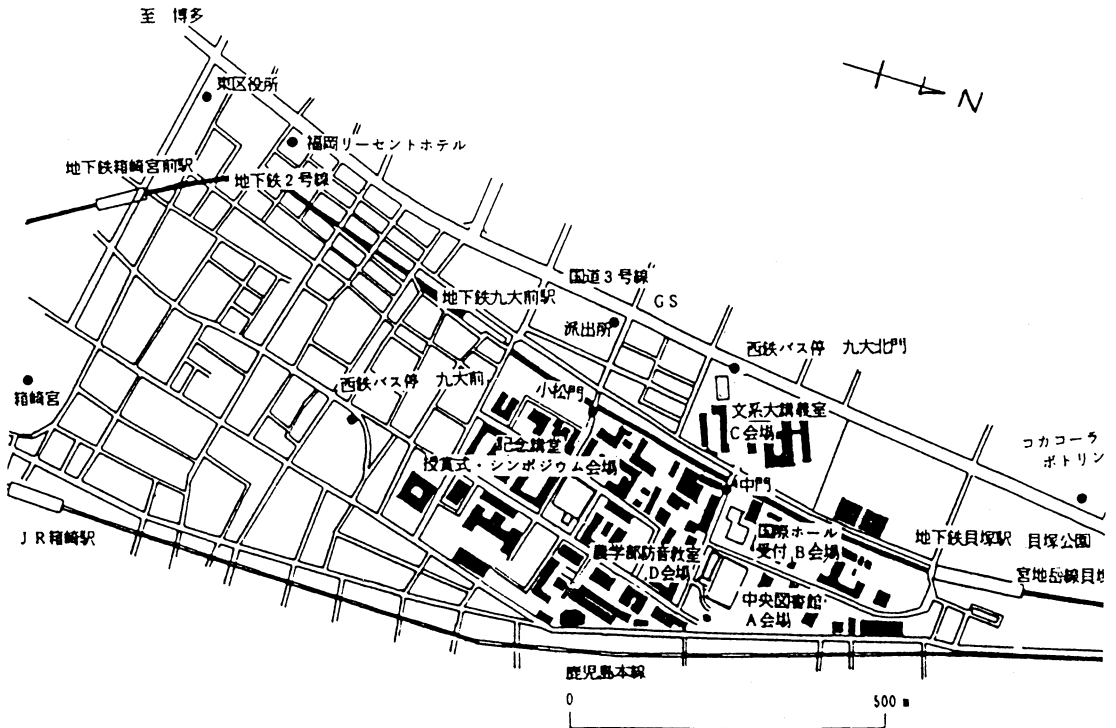
会場案内	559
大会行事予定表	560
シンポジウム内容	561
研究発表題目	562～571

## 会場案内図

〈市内主要地区からの交通〉

JR 博多駅から九州大学まで：地下鉄中洲川端駅乗換（貝塚行き）箱崎九大前下車  
(所要約15分, 料金220円)

天神駅から九州大学まで：地下鉄中洲川端駅乗換（貝塚行き）箱崎九大前下車  
(所要約13分, 料金220円)





## シンポジウム

## "Torrential Rainfall in the Tropics and East Asia"

1. 日時 大会第2日(10月19日) 14:45~17:45
2. 会場 九州大学記念講堂2階 大講堂
3. 座長 田中正之(東北大・理), 小林哲夫(九大・農)
4. 講演

Prof. Ryozo Tatehira (University of Electro-Communications): Prediction of Heavy Rainfall by Radar Technique.  
 Director Patipat Patvivatsiri (Meteorological Department, Thailand): Torrential Rain in Thailand.  
 Prof. Ding Yihui (Academy of Meteorological Sciences, China): Heavy Rain Producing Systems and their Meso-scale Structures.  
 Prof. George Tai-Jen Chen (National Taiwan University): Torrential Rain in Taiwan and TAMEX Related Topics.  
 Prof. Tsutomu Takahashi (Kyushu University): Precipitation Processes of Heavy Rain Producing Cloud Systems in East Asia.

## 研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます。興味のある方はご自由にご参加下さい。

## 1. 第4回GAIM研究会

日時: 10月21日(金) 09:00~13:00

会場: 九州大学理学部・生物学教室会議室(箱崎キャンパス理学部3号館5階)

招待講演:

1. 久保拓弥(九大・理) 「森林動態のモデリング: 擾乱スキームと地球変化」
2. 野田 彰(気研・気候) 「気象研究所大気海洋結合モデルによる二酸化炭素漸増実験」

一般講演: 詳細は大会会場に掲示

世話人: 及川武久(筑波大・生物科学), 木田秀次(京大・理)

## 2. 極域研究連絡会, 拡大幹事会

日時: 10月18日(火) 18:00~19:30

場所: 大会会場(詳細は当日掲示)

世話人: 山内 恭(極地研), 阿部彩子(東大・気候システム)

## 3. 大気-海洋相互作用研究会

日時: 10月21日(金) 09:30~12:00

場所: 大会会場の予定

テーマ: ① TOGA COARE International Data Workshop (2-11 August 1994, Toulouse, France) の報告

② その他

事務局: 藤谷徳之助(気研・応用)

今回は「メソ気象研究会」はありません。

## 春季大会の予告

1995年度春季大会は、5月15日(月)~17日(水)に気象庁とK K R竹橋で開催されます。大会告示は「天気」12月号に掲載します。講演申込締切は2月20日ごろを予定しています。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

## 大会第1日〔10月18日〕 09:30~12:30

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## 熱帯気象

座長:丸山健人(気研・予報)

- A101 丸山健人・森 一正(気研):1992年11月3-16日, 啓略丸(0.5S, 154.5E)で観測された成層圏における1, 2および4日の周期帯のじょう乱
- A102 塩谷雅人(京大・理), J.Gille(NCAR), A.Roche, J.Kumar (Lockheed Palo Alto Res.Lab.): UARS-CLAESデータに見られる下部成層圏赤道ケルビン波の活動性について
- A103 清水 厚・津田敏隆(京大・超高層), N.Adikusumah(LAPAN): ケルビン波および積雲活動に伴う対流圏界面構造の変動
- A104 山岬正紀・大内和良(東大・理): ケルビン波のCISK(準線形の場合)
- A105 沼口 敦(国立環境研): TOGA-COARE IOPにおける熱帯太平洋の4-5日および15日周期変動
- A106 山崎信雄・村上勝人(気研・台風): TOGA-COARE期間中のスーパークラスターのコンポジット解析
- A107 高橋清利・村上勝人(気研・台風): 静止衛星データを用いた日変化への季節内振動の影響の解析—その2—
- A108 城岡寛一(北海道農試), 上田 博(北大・理), マヌス観測グループ: GMSとウインドプロファイラーからみたマヌス島周辺での対流活動
- A109 J.Widiyatmi, H.Hashiguchi, M.D.Yamanaka, S.Fukao, T.Tsuda(京大・超高層), SriWoro B.H. (BPPT), H.Wiryosumarto(LAPAN): Quasi 4 Day Mode Observed by the Boundary Layer Radar at Serpong (6°S, 107°E), Indonesia
- A110 橋口浩之・津田敏隆・足立樹泰・堤 雅基・下舞豊志・吉野謙晃・山中学・深尾昌一郎(京大・超高層), 渡辺明(福島大・教育), SriWoro B.H. (BPPT), H.Wiryosumarto(LAPAN): 境界層レーダーによるインドネシア赤道域乾季・雨季キャンペーン観測(2)
- A111 中澤哲夫(気研・台風): 季節内変動に伴う可降水量は大規模対流活動に先行しているか?
- A112 T.L.Bell(NASA): An Efficient Description of the Changes in the Distribution of Rain Rates over a Large Area[S]
- A113 浜田純一・山中学・橋口浩之・津田敏隆・深尾昌一郎(京大・超高層), A.Sudibyo, H.Wiryosumarto(LAPAN), SriWoro B.H. (BPPT): インドネシアBukittinggiおよびSerpongにおける降水量変動
- A114 塚本 修(岡山大・理), 石田廣史(神戸商船大), 金成誠一(北大・理): TOGA-COARE期間中の大気・海洋間の運動量と熱の交換過程
- A115 米山邦夫・黒田芳史・安藤健太郎・宗山 敬(海洋科学技術センター), 高尾宏一・伊藤淳雄(日本海洋事業), D.Hartoyo (BPPT): "warm pool" 域の表層海洋構造について

## B会場

## 物質輸送

座長:片谷教孝(山梨大・工)

- B101 内野 修(気研・衛星), 神山武久(筑波大), 永井智広・藤本敏文(気研・衛星), 甲斐憲次(筑波大): 等温位面高度の変化にともなう成層圏エーロゾルの鉛直構造の変動
- B102 内野 修・藤本敏文・永井智広(気研・衛星), H.Jager(IFU): ビナトゥッポ噴火後3年間のつくばでのライダー観測結果
- B103 安井元昭(九大・理), 野中秀文・白石浩一・進 和美・名倉義信・藤原玄夫(福岡大・理): ライダーによるピナトゥッポ起源成層圏エアロゾルの観測
- B104 長澤親生・阿保 真(都立大・工): ライダーにより観測された成層圏ピナトゥッポエアロゾル層と圏界面高度の関係
- B105 藤本敏文・内野 修・永井智広(気研・衛星), H.Jager(IFU): ビナトゥッポ火山起源エーロゾルのオゾン層への影響
- B106 山本 哲(気研・応用), 金戸 進(気象庁・南極観測事務室): 冬季南極成層圏における輻射ゾンドの異常記録
- B107 吉川友章・佐藤純次・栗田 進(気研・応用), 石川 勇(原子力研), 高橋圭一・小島啓美(気象協会): 粒子状物質の降雪中の拡散, 沈着実験
- B108 吉川友章・高橋俊二(気研・応用), 村治孝能(エナジエアリング): 粒子状汚染物質の降雪域内での沈着について(数値計算)
- B109 片谷教孝(山梨大・工), 佐々木啓隆(富士通エフアイビー), 村尾直人(北大・工), 岡本真一(東京情報大), 小林恵三(産業環境管理協会): 東アジア地域の酸性降下物のモデル計算—ラグランジュモデルとオイラーモデルの比較—
- B110 蕨保直樹・竹内浩士・林 正康・山本 晋(資源環境研), 佐々木秀孝(気研・応用): 日本海西部から東シナ海上で冬季にみられる高濃度汚染気塊(4)—JSM出力風を用いた1993年エピソードのトラジェクトリー解析—
- B111 山形孝子・下田晋也(気象協会), 田中 博(筑波大・地球科学): 1994年8月10日に噴火したBatur火山の噴煙追跡の結果報告
- B112 眞木貴史・岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 移流拡散モデルの改良
- B113 石川裕彦(京大・防災研), 山澤弘実・茅野政道・永井晴康(原子力研): 世界版SPEEDIを用いたETEX広域拡散実時間シミュレーション
- B114 山崎孝治(気研・気候): 北極域と南極域の水蒸気循環の比較
- B115 岩坂泰信・柴田 隆・林 政彦・小塩哲朗・権 成顔・酒井 哲・足立 宏・渡辺春香・奥原靖彦(名大・STE研): ラマンライダーによる気温の鉛直分布の測定
- B116 柴田 隆・林 政彦・岩坂泰信・渡辺春香・酒井 哲・権成顔・足立 宏(名大・STE研): ラマンライダーと気象ゾンデによる大気湿度高度分布の同時比較観測
- B117 権 成顔・岩坂泰信・柴田 隆・小塩哲朗・酒井 哲・足立宏(名大・STE研): 春季の対流圏の湿度分布とエアロゾル
- B118 松永捷司・岩坂泰信(名大・STE研), 村井康浩(気象協会・東海), 長田和雄・林 政彦・森 育子(名大・STE研): 揮発性硫黄化合物の若狭湾上空での鉛直分布(2)[S]
- B119 松永捷司・岩坂泰信(名大・STE研), 村井康浩(気象協会・東海), 林 政彦・長田和雄・森 育子(名大・STE研): 中部地方における地上大気中の揮発性硫黄化合物[S]

## 大会第1日〔10月18日〕 09:30~12:30

( ) は第2種講演を, ~ は講演者を表す, [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## 測器・観測手法

座長:高村民雄(防大・地球科学)

- C101 木村忠志・丸山敏介・石丸民之永・加藤 務(新潟電機): スノーパーティクルカウンター(SPC)による飛雪粒子粒径別個数の連続観測
- C102 牛山素行(岐阜大・連合農), 松山 洋(都立大・理): 簡易雨量計の試作と改良
- C103 田中博春・浜田 崇(都立大・理), 牛山素行(岐阜大・連合農): 簡易気温観測手法の精度について(2)
- C104 渡辺好弘(気象協会), 山口耕作(明星電気): JWA-94型低層ゾンデシステムの開発
- C105 折笠成宏・村上正隆・水野 量・山田芳則(気研), 松尾敬世(気象庁・温暖化), 永井智広・内野 修・坂井武久(気研), 松原廣司(高層気象台): 強制吸引式雲粒子ゾンデによる巻雲観測
- C106 花房龍男・加藤真規子・高橋俊二(気研): 複雑地形上におけるドップラーソーダ観測値について(その2) — 現地観測, 風洞実験および数値シミュレーションによる相互比較 —
- C107 赤井幸夫(電力中研): 移動型ラスレーダの開発
- C108 熊谷 博・花土 弘・佐藤健治・高橋暢宏・岡本謙一(通信総研), 中村健治(名大・水圏研): 航空機搭載マルチパラメータ降雨レーダの開発(2)
- C109 蕪澤 浩・坂井武久(気研・衛星), 深尾昌一郎(京大・超高層), 林田英俊(竹中工務店): ウィンドプロファイラーと境界層レーダの比較観測
- C110 坂井武久・小林隆久・蕪澤 浩(気研・衛星): ウィンドプロファイラーによる測風に対する降雨の影響について
- C111 小林隆久・坂井武久・永井智広(気研・衛星): ウィンドプロファイラーによる降雨粒径分布の観測
- C112 中村健治(名大・水圏研), 花土 弘(通信総研), つくば降雨グループ: つくば域降雨観測実験における地上雨滴粒径分布の変動
- C113 W. O. J. Brown, S. Fukao, M. Yamamoto(京大・超高層): Turbulence Structures Observed using Multiple Receiver Frequency Domain Interferometry on the MU Radar
- C114 上清直隆・牧原康隆(気研・予報): 東京・富士山レーダーで見る地形性エコーの現われ方について
- C115 牧原康隆(気研・予報): レーダー・アメダス解析雨量の作成手法 — 1993年6月以降運用のバージョンについて —
- C116 安藤泰弘・高村民雄(防大・地球科学), 風間茂穂(総合電子), 早坂忠裕・菊池信行・滝沢 巖(東北大・理): マイクロ波放射計による可降水量の観測
- C117 高村民雄(防大・地球科学): マイクロ波を利用した可降水量を求める新しい方法

## D会場

## 西日本の気象災害

座長:斉藤和雄(気研・予報)

- D101 櫻井仁人(鹿児島大・工), 細山田三郎(鹿児島大・教育): 「平成5年8月豪雨」の降雨の実態
- D102 斉藤和雄・加藤輝之(気研・予報): 非静水圧局地モデルによる1993年8月鹿児島豪雨のシミュレーション
- D103 花宮廣務・重信有三(大分地台): 台風9313号による大分県の災害(大分市内の内水氾濫)
- D104 室屋速巳(鹿児島地台): 台風第9313号による鹿児島地方の強雨について
- D105 高橋隆三・赤崎卓也(鹿児島地台): 台風9313号による鹿児島地方の強雨について
- D106 中吉一行・西辻和也(福岡管区): 台風9313号通過時に欠測した風速の推定
- D107 白石昇司(長崎海洋): 台風9313号による九州地方の高潮
- D108 須田芳彦(慶應高): 降雨強度式から得られる大雨の時間特性

座長:早川誠而(山口大・農)

- D109 早川誠而・谷 宏・山本晴彦・本広靖美(山口大・農): 台風による潮風害発生機構のモデル
- D110 早川誠而・谷 宏・山本晴彦(山口大・農): 台風・集中豪雨災害の変遷と豪雨の集中度について
- D111 山本晴彦・早川誠而(山口大・農), 鈴木義則(九大・農): 台風による九州地方の農業災害
- D112 山本晴彦・早川誠而(山口大・農), 鈴木義則(九大・農): 九州・山口地方における1994年梅雨期および夏季の異常気象
- D113 荒生公雄・住吉千秋(長崎大・教育), 武田喬男・藤吉康志(名大・水圏研), 岩崎博之(群馬大・教育): 雲仙岳に火山性土石流を発生させた1993年6月18日の雷雲の降雨特性
- D114 山口 悟(福岡地台): アメダス降水量と地形データを使用した筑後川の水位推定
- D115 直江寛明(大阪管区), 池田伸一郎(阿蘇火山博物館), 木下紀正・金柿主税・今村和樹(鹿児島大・教育): 阿蘇草千里におけるSO<sub>2</sub>高濃度事象の気象条件[S]
- D116 木下紀正・金柿主税・今村和樹(鹿児島大・教育): 桜島における火山ガス降下の気象条件[S]

## 大会第1日〔10月18日〕 14:00~16:00

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## B会場

## 大気大循環

座長:尾瀬智昭(気研・気候)

- A151 青木博松・塩谷雅人・廣田 勇(京大・理):南半球対流圏大循環の年々変動
- A152 梶原 誠(東大・地理):南半球におけるジェット気流の鉛直構造の季節変化
- A153 丁 亨斌・木村龍治(東大・海洋研):5日波の励起源
- A154 菅田誠治(国立環境研):大気大循環におけるラグランジュ的粒子運動
- A155 岩崎俊樹(気象庁・数値予報):4次元データ同化システムに基づく水収支評価法について
- A156 佐藤信夫(気象庁・数値予報):気象庁・数値解析予報システム更新の概要
- A157 沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 松山 洋・増田耕一(都立大・理):大気-流域水収支法による世界主要大河流域での陸水貯留量季節変化の推定
- A158 内藤勲夫(国立天文台), 沖 大幹(東大・生産研), 松山 洋・増田耕一(都立大・理), 菊地直吉(国立天文台):年周極運動に対する陸水の寄与
- A159 吉岡真由美・木村龍治(東大・海洋研):海洋上を吹く風が固体地球に与えるトルク(第3報)

- B161 藤原玄夫・白石浩一・宇加治一雄・永田深文(福岡大・理), 岩坂泰信・柴田 隆・林 政彦・長谷正博(名大・STE研), 近藤幸治(高層気象台):スバルパールにおける成層圏エアロゾルのライダー観測
- B162 岩坂泰信・林 政彦・渡辺征春(名大・STE研), 石坂隆(名大・水圏研), S. Saraspriya, S. Kaloka(LAPAN):インドネシアにおける成層圏オゾンとエアロゾルの観測(1993年11月・12月:ワトコセ)
- B163 石坂 隆・ピトオ S サルヲノ(名大・水圏研), 林 政彦・岩坂泰信(名大・STE研):熱帯上空成層圏・対流圏上部における氷晶雲のゾンデ観測

## エアロゾル

座長:毛利英明(気研・応用)

- B151 大和政彦(群馬大・教育), 畠山史郎・村野健太郎(国立環境研), 田中 浩(名大・水圏研), 坂東 博(大阪府大・工), 秋本 肇(東大・先端研), 石坂 隆(名大・水圏研), 渡辺征夫(公衆衛生院), 西川雅高・酒巻史郎・向井人史(国立環境研), 田中 茂(慶大・理工), 岩坂泰信(名大・STE研):航空機で観測された黄砂イベント—'94.3月IGAC-PEACAMPOT観測—[S]
- B152 全 浩(中日友好環境保護中心), 黄 業茹・西川雅高・森田昌敏(国立環境研), 岩坂泰信(名大・STE研):黄砂エアロゾルの発生源地で観測した砂塵嵐
- B153 森 育子・岩坂泰信・松永捷司・林 政彦・長田和雄・長谷正博・中田 澁・奥原靖彦・渡辺征春(名大・STE研):日本上空のエアロゾルの粒径分布—1994年7月の観測結果を中心に—
- B154 松岡静樹・菊地勝弘・上田 博・遊馬芳雄・奈良 慶(北大・理), マヌス観測グループ:バプアニューギニア, マヌス島でのエアロゾル数濃度変動
- B155 古賀聖治(資源環境研), 永尾一平・田中 浩(名大・水圏研), 岡田菊夫・毛利英明(気研・応用):昭和基地におけるエアロゾル粒子の粒径分布の季節変化
- B156 岩坂泰信・森 育子・松永捷司・長田和雄・坂東知子(名大・STE研):地表面大気中エアロゾルの化学組成と降下物の化学組成の比較
- B157 坪井一寛(徳島地台), 堤 之智(気研・物理), 細見卓也・土器屋由紀子(気大), 田中 茂・柳沢健司(慶大・理工):富士山頂における降水・エアロゾル・気体の化学成分の測定
- B158 三浦和彦・松田和秀・岩淵 淳・沢 正之・中江 茂(東京理大・理):個々の海塩粒子の化学組成の実験的研究
- B159 岩坂泰信・柴田 隆・松永捷司・長田和雄・林 政彦・小塩哲朗・酒井 哲・足立 宏(名大・STE研), 藤原玄夫(福岡大・理), 中根英昭(国立環境研), 近藤幸治(高層気象台):北極圏ライダー観測I:(アラスカ)
- B160 永井智広・内野 修・藤本敏文(気研・衛星), 板部敏和・水谷耕平(通信総研), 柴田 隆(名大・STE研):カナダ北極圏ユーレカにおける成層圏ライダー観測

## ポスター・セッション

10月18日 概要紹介:A会場にて16:10~16:35; 講演:国際ホール・ロビー(B会場前)で16:35~17:30

座長:沼口 敦(国立環境研)

- P101 松山 洋(都立大・理), 沖 大幹(東大・生産研), 増田耕一(都立大・理):全球規模の陸水貯留量の季節変化に関する予察的研究
- P102 植田宏昭・安成哲三(筑波大・地球), 川村隆一(防災科研):夏季西太平洋の大規模対流活動のジャンプ現象に与えるSSTの影響—年々変動—
- P103 T. Takeda, MD. S. Kamal, K. Kato(名大・水圏研): Intra-seasonal variation of cloud amount in Bangladesh during 1988 to 1992
- P104 遠藤伸彦・上野健一・安成哲三(筑波大・地球科学):1993年モンスーン期のチベット高原で観測された季節内変動
- P105 勝俣昌己・上田 博・Md. Nazrul Islam・高橋暢宏(北大・理):熱帯太平洋上のクラウドクラスターのメソスケール

構造について—地上及び衛星リモートセンシングデータによる事例解析—

- P106 森 一正(気研・台風), 石垣修二・前平岳男・上井哲也(気象庁・海上気象):西部熱帯太平洋上の対流の組織化—1993年5月, 10-11月啓風丸観測—
- P107 赤枝健治(気研・台風):停滞性雲域で観測されたメソスケール対流雲群
- P108 中井専人(防災科研):VAD法によって検出された内陸の寒冷前線
- P109 立花義裕・本田明治(北大・低温研):オホーツク海の海水と北海道の降雪との関係
- P110 金村直俊(札幌総合情報センター):1993年10月22日に札幌でみられた大雨について
- P111 桑形恒男(東北農試):夏期中部日本における熱的局地循環

## 大会第1日〔10月18日〕 14:00~16:00

( )は第2種講演を, ~は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## D会場

## 放射

座長:塩原匡貴(気研・気候)

- C151 小林哲夫・堤 純一郎(九大・農), 後藤慎吉(琉大・工), 桑 南平(九大・農):夜間の接地気層の放射冷却に関する研究(1) — 放射フラックスと乱流顕熱フラックスの同時観測 —
- C152 小林哲夫・桑 南平(九大・農):夜間の接地気層の放射冷却に関する研究(2)数値モデルによる検討
- C153 内山明博・塩原匡貴・浅野正二(気研・気候):分光放射計のラングレー法による検定
- C154 廣野幹彦・市川健児(新潟大・工): $N05.3\mu m$ 帯のwingにおける吸収
- C155 増田一彦(気研・衛星), H.G. Leighton(McGill大), Z. Li(CCRS):衛星データからの地表面短波放射収支の推定
- C156 山内 恭(極地研), J.B. Ørboek(Norw-極地研):北極スピッツベルゲン放射収支
- C157 久慈 誠(奈良大), 中島映至(東大・気候システム), M.D. King(NASA), 早坂忠裕・田中正之(東北大・理):AVHRR/NOAAによる海洋性層積雲の研究
- C158 真野裕三(気研・気候):雲を伴う混合層における放射の影響(2)
- C159 真野裕三(気研・気候):水平ランダムに配置された円柱状氷晶の散乱特性

## 雷

座長:塩原匡貴(気研・気候)

- C160 内海通弘・入野 仁・榎野武男・田中紀捷・村岡克紀(九大・総合理工), 木下文宏・片平 治(九州電力), G. Baitsur(ロシア総合物理研), 本田親久(宮崎大), 辻利則(宮崎大), 赤崎正則(九州東海大):レーザーによる雷の誘導を目指した室内模擬実験
- C161 紫村孝嗣・道本光一郎(防大・地球科学), 長屋勝博・長田正嗣(日本無線):冬季小松空港周辺における航空機の被雷事例について
- C162 加賀谷英和・上田 博・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理), 河崎善一郎(大阪大・工), 團井康夫(関西電力):若狭湾に冬季雷をもたらす雪雲の形態について
- C163 小林文明・内藤玄一(防大・地球科学), 酒井 勉(北陸電力):北陸沿岸における里雪時の雷雲について

## 境界層 I

座長:山澤弘実(原子力研)

- D151 名越利幸(千代田区九段中), 新野 宏(気研・物理), 木村竜治・檜山 浩・三沢信彦(東大・海洋研):斜面風の室内実験 第2報
- D152 大河内康正(八代高専):斜面下降流の時間変動
- D153 松尾親弥(福島大・教育):清川ダシの特性 II
- D154 甲斐憲次・日置江 桂・太田 稔(筑波大), 阿保 真・長澤親生(都立大・工), 村山利幸(東京商船大), 内野修・永井智広(気研・衛星), 伊藤政志・宇田川 満(東京都環境科研):ライダーネットワークによる環八雲の形成機構に関する観測 — 第1報 —
- D155 鈴木雅幸(日立市):発達した街路樹をもつストリートキャニオン内の気温分布 — 仙台市での観測より — [S]
- D156 佐橋 謙(岡山大・教育), 松原斎樹・蔵澄美仁(京都府大・生活科学):「京の町屋」の夏の屋内気流観測例 — 坪庭の効果に関連して —
- D157 浜田 崇(都立大・理), 荒沢純一(駒沢大・文), 藤野毅(埼玉大・工):算出手法の違いによるヒートアイランド強度の比較 — 滋賀県長浜市を例として —
- D158 千葉 修(高知大・理), 内藤玄一・小林文明(防大・地球科学), 鳥谷 均(農環技研), 都築信明・落合 健(防大・地球科学):ヘリコプターによって観測された海風後部の構造について[S]
- D159 山本 哲・里村雄彦(気研・応用):非静力学モデルによる混合層のシミュレーション
- D160 高橋俊二(気研・応用):「丘の上の測候所」での風観測
- D161 高木久之(気象協会), 北田敏廣(豊橋技術科学大), 筑紫文夫(気象協会):海風時, 海岸付近の小丘が下流部の乱流運動エネルギー分布に与える影響 — 2次元 $k-\epsilon$ モデルによる解析 —
- D162 鶴野伊津志(国立環境研):4次元データ同化手法による関東地域の局地循環のシミュレーションと評価
- D163 浦野 明・森川泰成・西村正和(大成建設):関東地方の局地風に及ぼす都市の規模の効果(その2)

概要紹介は1件1分以内です。ポスターには表題と発表者名を明記して下さい。

ポスターを掲示できる期間は、10月18日当日限りです。ポスター・セッション終了後、ポスターを撤去して下さい。

## 環と対流性降雨との関係 — 1985年の事例解析 —

- P112 吉門 洋・兼保直樹(資源環境研):初冬季高濃度大気汚染に影響する海風の構造(東京の事例研究)
- P113 田中博春(都立大・理):ハッ岳山麓にみられる高温層について(2) — 気温の逆転と相対湿度 —
- P114 一ノ瀬俊明・花木啓祐(東大・先端研), 鶴野伊津志(国立環境研):細密地理情報にもとづく都市気候数値シミュレーション 地表面境界条件の高精度化
- P115 安田延壽(東北大・理):接地気層の厚さ
- P116 小泉 耕(気研・予報):ニューラルネットワークによる降水確率分布図の作成
- P117 田中 博(筑波大・地球科学), 山形斉子・下田晋也(気象協会), K.G. Dean, R. Guritz, S.-I. Akasofu(アラスカ大):火山灰追跡モデルの開発と結果のアニメーションの紹介[V]
- P118 大野宏之(国際農林水産業研究センター), T. Wiesinger・高見晋一・小南靖弘(北陸農試):固体降水量の正確な計測にむけた2つの取り組み
- P119 佐藤 昇(大阪府教育センター):大阪で観測された雹のエンプリオ
- P120 塩原匡貴・浅野正二・内山明博・真野裕三・村上正隆・高山陽三(気研):JACCSにおける雲と放射の航空機観測システム
- P121 岩坂泰信・柴田 隆・松永捷司・長田和雄・林 政彦・小塩哲朗・酒井 哲・足立 宏(名大・STE研), 藤原玄夫(福岡大・理), 中根英昭(国立環境研), 近藤幸治(高層気象台):北極圏ライダー観測II:(アラスカ)
- P122 松永捷司・岩坂泰信・長田和雄・森 育子・柴田 隆(名大・STE研):アラスカでの積雪試料中の化学成分濃度と対流圏ダスト

## 大会第2日〔10月19日〕 09:00～11:30

( )は第2種講演を, ~~~~~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## 年々変動

座長:千葉 長(気研・気候)

- A201 藤川典久・前田修平・林 久美(気象庁・長期予報):1994年夏のアジア・太平洋域の循環場の特徴について
- A202 小出 孝・二階堂義信・佐藤康雄(気研):日本に猛暑をもたらした'94年夏のIPV解析[V]
- A203 加藤内蔵進(名大・水圏研), 斯 公望(杭州大), 武田 喬男(名大・水圏研):1991年5~8月における長江・淮河流域付近の雲分布と降水量の変動(序報)
- A204 S.B.Sipayung, H.Tanaka(名大・水圏研):THE DIFFERENCE OF THE CHARACTERISTICS OF METEOROLOGICAL ELEMENTS BETWEEN PADANG AND SURABAYA IN INDONESIA
- A205 杉 正人・川村隆一(防災科研), 佐藤信夫(気象庁・数値予報):気象庁全球モデルの34年ランでシミュレートされた夏のアジアモンスーンの年々変動(2)
- A206 児玉安正(弘前大・理):水惑星モデルによる亜熱帯前線帯(STFZ)の研究(第2報)
- A207 D.R.C.Nair, M.Sugi(防災科研), N.Sato(気象庁・数値予報):The Climate of Tropical Precipitation simulated by the JMA Global Model
- A208 J.-J.Baik, M.Takahashi(東大・気候システム):Sensitivity of the GCM-Simulated Climate to Cumulus Parameterizations
- 座長:杉 正人(防災科研)
- A209 柴田清孝(気研・気候):火山性エアロゾルの極域成層圏に及ぼす放射効果について
- A210 千葉 長・小寺邦彦・山崎孝治・柴田清孝(気研・気候):大規模火山噴火後の暖かい冬
- A211 米谷恒春(防災科研), I.Smith, H.Gordon(CSIRO):気候モデルによる1993年天候の再現実験
- A212 川村隆一・杉 正人(防災科研), 佐藤信夫(気象庁・数値予報):気象庁全球モデルを用いたアンサンブル気候実験
- A213 谷本陽一(東大・気候システム), 岩坂直人(東京商船大), 花輪公雄(東北大・理):冬季海面水温場と大気大循環場に対する特異値分解解析
- A214 可知美佐子・新田 勅・谷本陽一(東大・気候システム):1970年代~1980年代の大気-海洋変動
- A215 行本誠史・遠藤昌宏・北村佳照・鬼頭昭雄・本井達夫・野田 彰(気研), 時岡達志(気象庁・気候変動):大気海洋結合モデルにあらわれた太平洋域における数年~数十年スケールの変動

## B会場

## 気象予測

座長:高野 功(気研・予報)

- B201 島村 誠(JR東日本), 鷺尾 隆(三菱総研):自己帰帰モデルに基づく強風予測手法に関する研究
- B202 栗原和夫(気研・予報):非静力学モデルと静力学モデルの計算効率の比較(その1)
- B203 齊藤和雄(気研・予報)非静水圧ネスティングモデルについて(5) — マップファクターの導入 —
- B204 加藤輝之(気研・予報):メソスケールモデルに与える地表面斜度による日射の増減の影響
- B205 釜塚弘隆(気研・台風):スペクトラム期間中の全球再解析 — 台風予報に対するスペクトラム特別観測のインパクト —
- B206 永田 雅(気象庁・数値予報):1993年8月豪雨のシミュレーション — JSMと「10kmモデル」による予報 —
- B207 野口晋孝・小泉 耕(気研・予報):関東地方における不連続線と短時間強雨について
- B208 檜尾守昭・大沢和裕(気象庁・予報), 倉内利浩(気象庁・業務):重力流理論モデルの拡張 — 鉛直シャーおよび寒気と暖気の気温差の影響 —

## 総観気象

座長:檜尾守昭(気象庁・予報)

- B209 高山 大・高野 功・瀬古 弘(気研・予報), 小倉義光(気象協会), つくば降雨グループ:関東に大雪を降らせた南岸低気圧の総観解析 — つくば域降雨観測実験'94年2月12日の事例 —
- B210 鈴木力英(筑波大・地球科学):本州付近の対流圏中層に現れる気温逆転層の成因
- B211 中村 尚(東大・理):オホーツク海高気圧と上空のプロッキングの時間発展
- B212 菅野洋光(東北農試):1993年ヤマセの鉛直構造とその特性
- B213 金 海東・木村龍治(東大・海洋研):ヤマセ気流の気団変質過程
- B214 上野 充(気研・台風):渦の移動に対する外力のサイズの効果
- B215 岡村博文(気研・台風):ジェット気流中心軸付近のメソ構造



## 大会第2日〔10月19日〕 09:00~11:30

( 〃 は第2種講演を, 〃 は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## D会場

## 雲物理

座長: 力石國男(弘前大・理)

- C201 油川英明(北海道教育大・岩見沢): 過冷却微水滴から生成する雪結晶について[V]
- C202 Y. Fujiyoshi(名大・水圏研), K. Muramoto(金沢大・工): Stochastic Breakup of Melting Snowflakes
- C203 串山 傳・高橋 劭(九大・理): 霰・霰衝突時に発生する二次氷晶芽の着氷回転数, 含水量, 衝突速度の依存性
- C204 水野 量・村上正隆・山田芳則(気研・物理), 松尾敬世(気象庁・温暖化): 過冷却雲へのシーディング実験 — 1994.3.10雲頂温度-3℃の雲 —
- C205 村上正隆・山田芳則(気研・物理), 松尾敬世(気象庁・温暖化), J. Marwitz, G. Gordon(ワイオミング大): 雪雲の上昇流中の氷晶濃度
- C206 村上正隆・山田芳則・水野 量(気研・物理), 松尾敬世(気象庁・温暖化), 岩波 越(防災科研・長岡), 中井専人・真木雅之(防災科研): 暖気移流場に発生したバンド状降雪雲の構造(その2)
- C207 鈴木賢士・田尻拓也・中森健一・川野哲也・高橋 劭(九大・理): 鹿児島降雨のビデオゾンデ観測
- C208 水野 量・村上正隆・山田芳則(気研・物理), 松尾敬世(気象庁・温暖化), 寺川 陽ほか(土木研), 田中長光ほか(利根川ダム統合管理事務所), 梶川正弘(秋田大・教育): マイクロ波放射計による日本海沿岸~内陸における雲水量の観測
- C209 青梨和正・柴田 彰・村上正隆(気研), 劉 国勝(Univ. Colorado): SSM/I 37GHzと85GHzチャンネルで見た温暖前線の降水域(1988年5月20日の事例)
- C210 滝沢 巖・早坂忠裕・田中正之(東北大・理): SSM/Iデータによる鉛直積算水蒸気量, 凝結水量, 凝結水量の推定
- C211 松月 昇・加藤内蔵進・武田喬男(名大・水圏研): 寒気吹き出し時の日本海上の気団変質と雲群の特徴
- C212 阿部博文・遠峰菊郎(防大・地球科学): 三沢市における霧・層雲の形成と大気下層の構造
- C213 力石國男・藤田幸大(弘前大・理): 釧路の霧の発生要因

## 境界層II

座長: 堀口光章(京大・超高層)

- D201 毛利英明・藤谷徳之助(気研・応用), 窪谷浩人(お茶大・理): 解析的なウェーブレット関数
- D202 三上正男(気研・応用), 安田延壽(東北大・理): 重相関係数による粗度パラメーターの決定
- D203 加藤貞規子・花房龍男(気研), 伊藤芳樹・副島潤一郎(カイジョー), 堀 晃浩(気象協会): 複雑地形上における風のスペクトル(2)
- D204 米谷俊彦・柏木良明(岡山大・資源生物研): 植物群落上の乱流特性について(32)[V]
- D205 新美和造・石川信敬・兒玉裕二(北大・低温研): 熱収支法による気温変化の考察
- D206 板野稔久・光田 寧(京大・防災研): 中国ゴビ砂漠HEIFE領域での風の特性と水蒸気の輸送について
- D207 萩野谷成徳・木下宣幸(気研・物理), 汎 達発・段 廷揚(成都気象学院): チベットにおける自動気象観測(2)
- D208 蒲生 稔(資源環境研): 砂漠域の大規模沈降と混合層
- 座長: 米谷俊彦(岡山大・資源生物研)
- D209 渡辺 明(福島大・教育): 境界層レーダーによる山岳波の観測
- D210 大野裕一・増田悦久(通信総研): CRLウィンドプロファイラの長期観測結果
- D211 千葉 修・佐々浩司・徳弘 聡(高知大・理): SodarとSATによる大気境界層下部の乱流構造(2)[安定成層の場合][S]
- D212 堀口光章・光田 寧(京大・防災研), 雪野昭寛・足立幹雄(関西電力): 山岳地(敦賀試験線)における風の観測(1) — ドップラーソーダによる風の鉛直分布の観測 —
- D213 都築信明・小林文明・内藤玄一・紫村孝嗣・越智文久(防大・地球科学): ドップラーソーダーによる三浦半島東岸の大気観測(5) — 夏季における強い南風の鉛直構造 —
- D214 小林文明・内藤玄一・都築信明・紫村孝嗣・越智文久(防大・地球科学): ドップラーソーダーによる三浦半島東岸の大気観測(6) — ソーダと地上における強風の対応 —
- D215 永井晴康・山澤弘実・林 隆・茅野政道(原子力研), 石川裕彦(京大・防災研): 松林内での拡散実験(1) — 実験の概要 —
- D216 山澤弘実・永井晴康・林 隆・茅野政道(原子力研), 石川裕彦(京大・防災研): 松林内での拡散実験(2) — 松林内外での乱流統計量 —

( ) は第2種講演を, ~ は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## 気象教育

座長: 馬淵和雄 (気研・気候)

- A301 光本茂記(国立環境研): 「地球環境問題」をどのように教えるか — 学部3年生に対する4年間の講義の経験から —
- A302 一ノ瀬俊明・花木啓祐(東大・先端研), 松尾友矩(東大・工): 大学における大気科学実習教材の研究 — 環境工学の立場から —

## 気候システム I

座長: 馬淵和雄 (気研・気候)

- A303 小林哲夫・永井秀幸・賀文君(九大・農): 乾燥砂地における水蒸気密度の鉛直プロファイルの直接測定
- A304 小林哲夫(九大・農): 乾燥裸地面からの非等温蒸発の機構
- A305 近藤純正(東北大・理), 本山浩司(広島県): 多粒径土壌の蒸発パラメータと蒸発抑制効果
- A306 大野宏之(国際農林水産業研究センター), 上田豊(名大・水圏研), 高見晋一(北陸農試), 大畑哲夫(名大・水圏研): 大陸性水河における蒸発
- A307 松島大・近藤純正(東北大・理): 線形熱収支モデルと観測データによる裸地面バルク輸送係数の推定(改訂報)
- A308 大畑哲夫・矢吹裕伯(名大・水圏研), 太田岳史(岩手大・農): チベット高原永久凍土帯の陸面過程の研究(2)地表面層の温度・水分状態と地中伝導熱の季節変化
- A309 近藤純正・深堀協子・山崎剛(東北大・理): 雪による森林上のアルベドの変化 — 盛岡での観測から
- A310 三枝信子(筑波大・生物科学), 劉厦(筑波大・環境科学), 赤沢孝之・及川武久(筑波大・生物科学): 草原生態系—大気間の二酸化炭素・水交換量の季節変化
- A311 林正康・浦生稔・山本晋・村山昌平(資源環境研): タイの熱帯季節林における二酸化炭素収支の観測研究
- A312 馬淵和雄・佐藤康雄(気研), 木田秀次(京大・理): 植生によるCO<sub>2</sub>の吸収・放出過程を導入した陸地表面モデル(II)
- A313 森山茂・湖上農一・高原光子(日大・生産工), 野本岳志(東大・農): 閉鎖生態系を用いた地球環境の生成に関する研究(その4)
- A314 佐藤信夫・益子直文(気象庁・数値予報), 藤川典久(気象庁・長期予報), 西村照幸(東大・気候学): 0次元陸面水文過程モデルを用いた全球積雪深・土壌水分分布の推定
- A315 山崎剛(東北大・理): 土壌凍結推定のための積雪3.5層モデル
- A316 尾瀬智昭(気研・気候): 局所的な積雪量偏差に対する大気の応答 — MRI-GCM実験
- A317 江守正多(東大・教養), 沼口敦・光本茂記(国立環境研): GCMの流出過程の違いがグローバルな水循環に及ぼす影響

## B会場

## オゾン

座長: 佐藤公喜 (愛知県公害調査センター)

- B301 村松久史(京大・防災研), 若嶋樹也(名大・人間情報): 地上オゾンに対する鉛直輸送と光化学の影響
- B302 箕浦宏明・美澤史帆(豊田中央研): 地上付近のオゾン濃度観測(II)
- B303 村山昌平(資源環境研), 山崎孝治(気研・気候), 青木周司(極地研), 中澤高浩(東北大・理): 昭和基地上空における対流圏オゾン濃度と大気輸送過程の季節変化
- B304 川平浩二・若島将洋(富山高専): 北半球冬季のオゾン量と大規模波動の年々変動の相互関連
- B305 鮎川江里香・廣岡俊彦(九大・理): オゾンの年々変動とその力学場との関係(I)
- B306 小竹知紀・福西浩(東北大・理), 中根英昭(国立環境研): 1992年北半球冬期におけるポテンシャル渦度とオゾン混合比との相関解析
- B307 佐藤公喜(愛知県公害調査センター): 成層圏オゾンが下降する際の下層大気物質分布の変動
- B308 植原孝浩・鮎川江里香・廣岡俊彦・宮原三郎(九大・理): 大気大循環モデルによるオゾン分布と時間変化
- B309 松園正(コンピュータ・テクノロジー・インテグレイタ), 小川利紘(東大・理): 成層圏/対流圏オゾンの二次元化学輸送モデリング
- B310 川合純子・吉川雅修・片谷孝教(山梨大・工), 中山里美・村尾直人(北大・工): 3次元全球モデルと感度法による対流圏オゾン濃度の試算
- B311 川上修司・近藤豊・小池真・中島英彰・家田正彦(名大・STE研): 太平洋上における窒素酸化物の航空機観測(PEM-West B)
- B312 重松直子・田口真・岡野章一・福西浩(東北大・理): レーザーヘテロダイン分光計を用いたN<sub>2</sub>Oの観測とその高度分布の導出
- B313 内海通弘・田中紀捷・村岡克紀(九大・総合理工), 秦俊博・前田三男(九大・工), 内野修(気研・衛星): CH<sub>4</sub>, CO, CO<sub>2</sub>, N<sub>2</sub>O濃度分布計測用ライダーの検討
- B314 下田昭郎・小林博和・門倉真二(電力中研): 航空機搭載型赤外フーリエ分光計を用いた赤外放射スペクトルの観測
- B315 今須良一・林正康(資源環境研): 衛星搭載赤外分光計による微量気体の測定: シミュレーションII
- B316 門倉真二・下田昭郎・小林博和(電力中研): 赤外分光法を用いた大気探査におけるチャンネル選択と推定可能な未知量の決定法(層の結合)

## 大会第3日〔10月20日〕 09:00~12:00

( )は第2種講演を, ~~~~~は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## メソ降水システム I

座長:佐藤晋介(北大・低温研)

- C301 原田育郎(旭川地台), 中村 二(気大): 冬の日本海上に現れる収束帯の形成に関する数値的研究
- C302 伊賀啓太・坪木和久(東大・海洋研): 日本海上の小低気圧発生初期に見られる波動性擾乱
- C303 三沢信彦・上野義和・木村龍治(東大・海洋研): 前線不安定の室内実験(第3報)
- C304 遠峰菊郎・安藤泰弘(防大・地球科学), 若井武夫・酒井勉(北陸電力): 冬季北陸における, 海上と陸上のレーウィンゾンデ観測データの比較
- C305 吉本直弘・藤吉康志(名大・水圏研): 筋状降雪雲を構成する組織化した対流性レーダエコーの構造
- C306 M. A. Menshov, H. Uyeda, K. Kikuchi(北大・理): Internal structure of snow band produced by cold outflow from land to sea in Ishikari Bay
- C307 西潟政宣(秋田地台), 中村 二(気大): 関東南岸沖のメソ擾乱の解析
- C308 高野 功・瀬古 弘・高山 大(気研・予報), つくば降雨グループ: 関東平野に大雪をもたらした南岸低気圧の数値シミュレーション—つくば域降雨観測実験'94年2月12日の事例—
- C309 笠原塔子・立平良三(電通大): 単ドップラーレーダーによる風推定の誤差特性と精度改善
- C310 瀬古 弘(気研), 立平良三(電通大), 吉崎正憲(気研), つくば降雨グループ: 「つくば域降雨観測実験」で観測された秋雨前線(1993.9.22)のメソ構造(2)簡略化VVP法で求めた風の三次元分布
- C311 瀬古 弘・高野 功・栗原和夫・吉崎正憲(気研), つくば降雨グループ: 「つくば域降雨観測実験」で観測された秋雨前線(1993.9.22)のメソ構造(3)水を考慮した31層10km格子JSMによる数値実験
- C312 栗原和夫・赤枝健治(気研), つくば降雨グループ: 「つくば域降雨観測実験」—関東南岸沖を通過した低気圧に伴う前線(1993年10月8日の「台風に刺激された前線」との類似性)
- C313 楠 研一・大野久雄・鈴木 修・上清直隆(気研), つくば降雨グループ: 「つくば域降雨観測実験」つくばダウンバースト1994年7月8日I—ドップラーレーダーで見た外出流の鉛直構造—
- C314 赤枝健治・坂井武久(気研): 「つくば域降雨観測実験」つくばダウンバースト1994年7月8日II—ダウンバーストをもたらした対流雲の構造—
- C315 岩下晴彦(日本航空): 羽田の東を通った巨大積乱雲による地上強風
- C316 岩下晴彦(日本航空): 関東上空で乱気流多発日の大気断面図の特徴[S]
- C317 藤井 健(京都産業大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 台風9313号の気圧分布形について

## D会場

## 気象力学

座長:宮原三郎(九大・理)

- D301 森 厚(東大・海洋研): ディシュバン型回転水槽の軸対称流に対する線形擾乱—固有値問題—
- D302 三村和男(東海大・教養): 極渦反転実験(その3)[V]
- D303 宮尾みずほ(新潟地台), 辻村 豊(気大): Pressure dipのソリトンモデル
- D304 金久博忠(気研・予報): 非一様な安定度を持つ大気中のおろし風
- D305 岩山隆寛(九大・理), 岡本壽夫(高知大・理): 準地衡流モデルにおける渦粘性
- D306 伊藤久徳(和歌山大・教育), 木本昌秀(東大・気候システム): カオスの遍歴と天候レジーム
- D307 加藤輝之(気研・予報): 熱帯加熱に対する三次元大気の線形応答 その1 鉛直シアを持った基本流を与えた場合
- D308 石渡正樹(東大・理), 林 祥介(北大・地球環境): 暴走温室状態の数値計算: 1次元系と3次元系の比較
- D309 中島健介(東大・気候システム): wave-CISKとWISHEの関係についての考察

## 大循環の力学

座長:廣岡俊彦(九大・理)

- D310 松田佳久(東大・理): 熱源に対するブシネスク流体の非線形応答
- D311 竹内 覚(九大・理), 堀川邦明・小笠原雅弘・長谷川均(月惑星研究会), 渡部潤一・山下卓也(国立天文台): SL9と木星の衝突の観測報告: 木星中層大気の帯状流測定
- D312 佐藤正樹(埼玉大・工): 軸対称・非軸対称の比較実験による(PV- $\theta$ )の予面分布
- D313 直江寛明(大阪管区), 松田佳久(東大・理): 東西非一様な基本場におけるロスビー波の伝播
- D314 森本浩之・廣岡俊彦・三好勉信(九大・理): GCM自由振動ロスビー波の研究
- D315 黒田友二・千葉 長(気研・気候): 停滞性ロスビー波と日潮汐の干渉が帯状対称潮汐に及ぼす影響について
- D316 岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 1994年1月における北半球成層圏の中期予報精度
- D317 三好勉信(九大・理): GCMによる中層大気大循環の数値計算(2)

## 大会第3日〔10月20日〕 13:30~16:30

( ) は第2種講演を, ~ は講演者を表す。[S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## A会場

## B会場

## 気候システムII

座長:平沢尚彦(極地研)

- A351 佐々木秀孝・千葉 長(気研):狭領域モデルによる6月の日本の気候のシミュレーション
- A352 加藤央之・西澤慶一・平口博丸(電力中研), F.Giorgi(NCAR):地球温暖化に伴う東アジア地域の気候変化予測(1) — NCAR地域気候モデルの評価 —
- A353 平口博丸・丸山康樹・加藤央之・西澤慶一(電力中研), F.Giorgi(NCAR):地球温暖化に伴う東アジアの気候変化予測(2)大気・海洋混合層モデルにネストした地域気候モデル
- A354 本田明治・立花義裕・若土正曉(北大・低温研):海水域の存在に伴う北海道付近の気圧上昇について
- A355 立花義裕(北大・低温研):オホーツク海の高氷の自己増殖作用
- A356 落合 健・内藤玄一(防大・地球科学), 佐々木保徳・中村 亘・角田晋也(海洋科学技術センター):Chukchi海水域での大気海洋間の熱収支
- A357 野田 彰・本井達夫・行本誠史・中川慎治(気研・気候), 時岡達志(気象庁・気候変動):MRI-GCMによるCO<sub>2</sub>漸増実験における海水の年々変動
- A358 岡田 格(総研大), 山内 恭(極地研):南半球海水域における大気のエネルギー収支
- A359 平沢尚彦・山内 恭(極地研):南極域のOLR分布と極ジェットの変動の関連性について
- A360 平野 博(熊本地台):熊本における降水量の特徴
- A361 和田 誠・青木周司・山内 恭(極地研), 小西啓之(大阪教育大):北極圏Svalbardの雲・降水の月変動
- A362 岩嶋樹也(名大・人間情報), 山元龍三郎・奥田昌弘(気象協会・関西):降水量の長期変動に関する解析(Ⅲ) — 1時間降水量の解析 —
- A363 SANGA-N.K.・福山 薫(三重大):アフリカザイール川流域における過去30年間の気候変動 2. 降水量の長期変化
- A364 水越允治:18世紀末以後の夏の暑さと冬の寒さの長期変動傾向 — 三重県津市を例に —
- A365 福山 薫(三重大), 山本淳之(大阪電通大), 柏谷健二(金沢大):間氷期の気候変動と琵琶湖底堆積物の粒度変化
- A366 正村史朗(総合科学研):「太陽活動の法則」と、それに基づく「120年気象周期」等の発見及びその「実証」

## 二酸化炭素

座長:田口彰一(資源環境研)

- B351 山本 晋・村山昌平・兼保直樹(資源環境研), 後藤浩一(関西総合環境センター):中部太平洋における大気及び海洋間のCO<sub>2</sub>の交換量について(その4)
- B352 青木周司・伊藤 一・牛尾収輝・森本真司・小野延雄・山内 恭(極地研), 中澤高清・菊池正昭(東北大・理), T.Vinje(Norvege極地研):グリーンランド海における二酸化炭素の分布と変動
- B353 中澤高清(東北大・理), 森本真司・青木周司(極地研), 田中正之(東北大・理):西太平洋域における大気中のCO<sub>2</sub>の炭素同位体比 $\delta^{13}C$ の変動
- B354 中澤高清・石澤みさ・田中正之(東北大・理):大気中CO<sub>2</sub>の酸素同位体比の変動について — Simple Modelによる試行的計算 —
- B355 田口彰一(資源環境研):3次元移流拡散モデルを用いた大気中二酸化炭素の研究 — 化石燃料の消費と季節変化する陸上生態系に対する応答 — [V]

## 大会第3日〔10月20日〕 13:30~16:30

( ) は第2種講演を, ~ は講演者を表す. [S]=スライド使用予定, [V]=VTR使用予定)

## C会場

## メソ降水システムII

座長: 荒生公雄 (長崎大・教育)

- C351 経田正幸 (金沢地台), 村松照男 (気大): 山脈の風下側斜面に降る大雨
- C352 藤吉康志・田中久理 (名大・水圏研), 斉藤和雄 (気研・予報), 金田幸恵・武田喬男 (名大・水圏研): 尾鷲沖に長時間持続した下層エコーの構造と成因
- C353 斉藤和雄 (気研・予報), 金田幸恵・L. Thanh・武田喬男 (名大・水圏研): 紀伊半島の降雨分布に対する地形の効果 part III
- C354 脳水健次 (九大・農): 山地斜面における降雨強度特性
- C355 土本順久・柴垣佳明 (大阪電通大), 橋口浩之・山中大学 (京大・超高層), 前川泰之 (大阪電通大), 深尾昌一郎 (京大・超高層): 梅雨前線近傍の風速変動に関するMUレーダー・境界層レーダー同時観測
- C356 柴垣佳明 (大阪電通大), 山中大学・深尾昌一郎 (京大・超高層), 渡辺明 (福島大・教育), 上田博 (北大・理), 前川泰之 (大阪電通大), 佐藤亨 (京大・工), 津田敏隆 (京大・超高層): MUレーダーとC・X・C/Ku帯気象レーダーを用いた対流群 (クラウドクラスター) の観測
- C357 武田喬男・森昌彦 (名大・水圏研): 6-7月に九州周辺を通過するメソスケール雲群の特徴
- C358 泉幸治 (福岡管区): 1993年8月6日九州南部地方の豪雨解析 (アメダスとレーダーによるメソ解析)
- C359 中田隆・坪木和久 (東大・海洋研): 1993年8月6日鹿児島豪雨の数値実験
- C360 川島正行・坪木和久 (東大・海洋研): 梅雨前線に伴うレインバンドの数値実験[S]
- C361 佐藤芳昭・上田博 (北大・理), 吉崎正憲 (気研・台風): 西太平洋赤道域の積乱雲に関する二次元数値実験 — 薄いOutflowの形成及びその発達過程 —
- C362 原昌弘 (気研・台風): 5 km格子モデルによる台風の数値実験 (序報) — 積雲対流をパラメタライズしない場合 —
- C363 森一正 (気研・台風): 啓風丸によりTOGA COARE IOP中1992年11月に観測された赤道対流
- C364 Md. Nazrul Islam, H. Uyeda, M. Katsumata, K. Kikuchi (北大・理): Signature of Rainfall from the Convective and Stratiform Components Observed by KEIFU MARU radar during the TOGA-COARE IOP
- C365 佐藤晋介 (北大・低温研), マヌス観測グループ: 熱帯西部太平洋で観測された層状性エコーの発達メカニズム

## D会場

## 中層大気I

座長: 三好勉信 (九大・理)

- D351 田平誠 (愛知教育大): 270秒周期の中層大気共振について
- D352 大石正純 (三菱重工), 宮原三郎 (九大・理): 中層大気大循環モデルでシミュレートされた下部熱圏潮汐波動によるSq地磁気変動
- D353 吉野謙晃・津田敏隆・堤雅基・中村卓次 (京大・超高層), H. Wiriyosumarto (LAPAN), SriWoro B. H. (BPPT): 赤道域における大気潮汐波の観測
- D354 五十嵐喜良 (通信総研), 西牟田一三 (通信総研・山川): 通総研山川観測所における中層大気MFレーダー観測
- D355 F. Hasebe (茨城大・理), M. Geller, Y. Chi, B. Khattatov (State Univ. New York), P. Hays, W. Skinner, M. Burrage, D. Ortland (Univ. Michigan), R. Vincent (Univ. Adelaide), A. Manson, C. Meek (Univ. Saskatchewan), W. Singer (Obs. Atm. Kuhlungsborn), D. Pritts (Univ. Colorado): Statistical Characteristics of Mesospheric Wind Observed by HRDI on UARS
- D356 中村卓司・津田敏隆・深尾昌一郎 (京大・超高層), R. A. Vincent, I. M. Reid (アデレード大), A. H. Manson, C. E. Meek (サスカチワン大): MUレーダー/MFレーダー観測による中間圏重力波活動のClimatology(2)
- D357 T. Tsuda, S. P. Namboothiri, M. Tsutsumi, T. Nakamura (京大・超高層), C. Nagasawa, M. Abo (都立大・工): Simultaneous observations of mesospheric gravity waves with the MU radar and sodium lidar

## 中層大気II

座長: 佐藤 薫 (東大・気候システム)

- D358 海老田綾貴 (津地台), 廣岡俊彦 (九大・理), 辻村豊 (気大), 神沢博 (国立環境研): 突然昇温後の等温極域成層圏の出現について
- D359 荻野慎也・山中大学・深尾昌一郎 (京大・超高層): 下部成層圏領域の重力波・Kelvin波の緯度変化 — J-COARE白鳳丸オメガゾンデデータの鉛直波数スペクトル解析 —
- D360 山中大学 (京大・超高層): 中層大気重力波分布の準単色モデルにおける緯度変化の検討
- D361 下舞豊志・山中大学・深尾昌一郎 (京大・超高層): MUレーダー・ラジオゾンデ3週間連続観測結果のウェーブレット解析: 風速変動と気温変動との対応について
- D362 足立樹泰・津田敏隆 (京大・超高層), 増田悦久 (通信総研), 深尾昌一郎 (京大・超高層): RASSによる対流圏界面付近の温度構造の観測

## 講演申込規定の改定等に関するアンケート結果について

1994年春季大会の予稿集で、大会の講演申込規定について以下の改定案を提案し、春季大会（1994年5月）で会員を対象としたアンケートを行いました。

1. 口頭・ポスター発表とも、1講演者について1件以内とする（従って合計2件以内）。
2. 第2種講演は論文・報文として印刷されることを前提とする。このため、その申込には投稿雑誌名等（学位論文等でも可）の記入を求める。

これについて、37件の回答を頂きました。文章で書かれた回答も多く、集約にはある程度の主観が入りますが、概略として下記の結果になりました。

### 1. について

賛成……20件

（うち7件は「止むを得ない」のニュアンスが強い）

反対……11件

口頭発表とポスター発表を「合計2件以内」とする

……2件

無記入……3件

### 2. について

賛成……16件

（うち4件は「止むを得ない」のニュアンスが強い）

「投稿済み」に限定されるなら賛成……1件

「投稿予定」の研究を含めるべきである……5件

（講演企画委員会としては「投稿予定でも投稿済みでもよい」というつもりでしたが、この点が説明不足であったようです）

第2種講演を廃止する……5件

それ以外の反対意見……5件

その他の意見……3件

無記入……1件

この他、「1と2のどちらか一方だけなら賛成」が1件

以上のように、1、2とも明確な反対意見は少ないものの、「会員全体の合意が得られた」とまでは言えない状況です。しかし、会員の研究分野や研究環境が多様化する中で、公平に開かれた研究発表の機会を保障するためには、講演申込規定の客観性を高めることが必要であると思えます。

反対意見の中には、「研究発表の機会が制約される」ことを心配するものがありました。しかし、新方式でも1人あたり1年に4件の発表が可能であり、論文が書ける段階までまとまった研究に対しては、他の口頭発表の2倍の発表時間が保証されています。

また、第2種講演の採否については、レフリー制度を導入する案が以前からあり、今回もこの趣旨の提案がありました。これは①査読者の負担が大きい、②講演申込期限が現在よりも大幅に（少なくとも10日程度）早まる等の問題点がありますが、実施すべきかどうか引き続き検討していきたいと考えております。

今回のアンケートとその結果の検討に基づき、講演企画委員会では講演申込方法の改定案を作成し、理事会の承認が得られれば1995年春季大会で試行したいと考えております。最終的な改定内容は大会告示（12月号）までにお知らせします。

1994年春季大会のアンケートでは、講演申込規定のほか、大会のあり方等についてのご意見を伺いました。これについての主な意見としては、以下のようなものがありました。

### 大会のあり方等について

・春と秋の大会の性格を変える……3件

・ポスター発表を充実する……5件

・大会日数を増やす……3件

（これに反対する意見……1件）

・予稿を複数ページにする……3件

### 会場について

・会場が狭い……8件

・ポスター発表の場所や時間を充実する……3件

・会場が分散しないようにする……4件

・スクリーンを見やすくする……2件

これらは、講演企画委員会内でも以前から議論してきた事柄であり、今回のご意見を参考にして改善を図ってきたいと思います。

なお左記のうち、予稿を複数ページにするのは以下の理由により困難です。

① 予稿集が厚くなり、値段も高くなる。

② 第2種講演のみを複数ページにしようすると、第2種として申し込まれた講演を第1種等に変更した場合の処置に困る。

また、「何ページにも及ぶ予稿が書けるぐらいなら、論文作成に精力を向けるべきではないか」という考え方もあります。

ポスター・セッションの活性化を求める意見が数件ありましたが、会員の皆様にはポスター・セッションへの積極的な参加をお願いします。

会場の施設を改善するためには何らかの財政措置（例えば大会参加費の値上げ）が不可欠です。会場の環境と会員の財政負担のバランスをどこに置くべきかは、講演企画委員会が分担する役割の範囲を超える問題であり、学会全体のレベルでの論議を期待します。

1994年9月 講演企画委員会